

会 議 録

会議名	令和7年度第1回東浦町食育推進委員会	
開催日時	令和7年5月27日（火） 午後1時30分から午後4時00分	
開催場所	東浦町勤労福祉会館 会議室1	
出席者	委員	石川恭央氏、太田江美氏、林佑亮氏、水野雅宣氏、 水野善久氏、山崎紀恵子氏、柴田裕子氏、間瀬千恵子氏
	事務局	丸山健康課成人保健係長、園田健康課成人保健係主査、鶴島商工農政課農政係主事、小田商工農政課商工労政係長、鈴木商工農政課商工労政係主事
欠席者	水野雅宣氏、柴田裕子氏、間瀬千恵子氏、水野商工農政課農政係長、大岩商工農政課農政係主事	
議題等	1 令和7年度於大まつりの報告について 2 令和7年度食育体験プログラムについて 3 グルぐるキャンペーンについて 4 令和7年度食育スケジュールについて 5 その他	
傍聴者の数	1名	
審議内容	◆事務局 ・傍聴人の報告 ・配布資料確認 ・会議の成立 要綱第6条第2項に基づき、委員の2分の1以上が出席していることから、会議の成立を報告。 ・あいさつ ・委員長挨拶 以降は、委員長が議事を取りまわす。 （議題1）令和7年度於大まつりの報告について ◆事務局 資料1に沿って、令和7年度の於大まつりの報告事項について共有する。	

4月19日(土)に開催された於大まつりでは、Re-Bone グルメの代理販売(おだいちゃんフィナンシェなど)、(株)安城デンビールによる東浦リボンビールの販売およびメイフェアによる摘果ぶどうのクラフトコーラの販売を行った。まつり当日は天候に恵まれ気温が高く、代理販売を行ったフィナンシェやレーズンサンドなどのスイーツは売れ行きが伸び悩んだ。今後は、より効果的なひがしうら Re-Bone グルメのプロモーション方法を検討していきたい。

当日ブース出展に参加した委員より、当日の感想を報告する。

◇委員

当日は天気のよさが逆目になり、かなり気温が高かった。直射日光が当たり、ブースのテント下に商品を置けず、来場者に効果的なPRが出来なかった。(株)安城デンビールの東浦リボンビールやメイフェアの摘果ぶどうのクラフトコーラは大人気であったため、ひがしうら Re-Bone グルメとしての啓発は効果的に実施できたと感じた。今後は、ひがしうら Re-Bone グルメの販売といった方法以外でのPR方法も検討していく必要がある。

◇委員長

意見・質問を問う。

(意見なし)

(議題2) 令和7年度食育体験プログラムについて

◆事務局

資料2に沿って、食育体験プログラムの概要について説明する。

昨年に引き続き、小中学生とその保護者をターゲットに、「食の循環」を体験し、学ぶことができるイベントを実施する。各体験プログラムの実施前には、「このイベントでは、食の循環のどこの部分を学ぶのか」等を子供たちに意識してもらうための共通説明を行う。また、食育体験プログラムの事前アンケートとして、申込時にイベント参加の動機に加え、「朝ご飯を毎日食べているか」など食への意識について集計を行う。

昨年は夏のキャンペーンに合わせ6つの体験プログラムを実施したが、今回は年間を通して食の体験ができるように、時期を分散して開催する。夏のキャンペーン時期に4つ、11月25日(火)学校ホリデーに合わせて2つ、春休み期間中に1つのイベントを計画している。昨年夏のキャンペーン時期に開催したグリーン・

ラソでのドリンク販売の体験は、春休みに時期を移行し、内容は朝食啓発に変更する形で検討している。また、新たな体験として学校ホリデーに合わせ、ぶどう園でクリスマスリース作りを体験する内容を計画している。

夏のキャンペーン期間中に実施するイベントについて、各担当より資料に沿って説明を行う。

青空教室と収穫体験

◇委員

資料２－１に沿って説明を行う。

昨年同様、青空教室としてぶどうの栽培や摘果ぶどうについての説明を行った後に、摘果ぶどうの収穫体験を行う。最後にぶどう狩りを体験してもらう。

昨年の反省点として、青空教室でのぶどうの説明の際に使用するホワイトボードがぶどう棚の中に入らず、ぶどう棚の外で行った。かなり気温が高く、暑くて説明を早く切り上げた。暑さ対策に気を付けながら、ぶどう棚の中で説明を行うなど、工夫して実施したい。

◆事務局

ぶどう棚の中に入る大きさのホワイトボードや黒板を準備するかテントを設置するなど、熱中症対策を行いながらイベントを実施したい。

おとうふ工房いしかわでおとうふ作りと工場見学

◆事務局

おとうふ工房いしかわが開催しているおとうふ作り教室をベースに、参加者におからについて学んでもらう内容を組み込んだ形で実施する。本体験では、単にとうふ作りを行うだけでなく、ひがしうら Re-Bone グルメの食材となっているおからについて学んでもらえるような説明や、おからが使用されているグルメの試食を行うなど、楽しみながらおからについて広く学んでもらう。

また、体験後には実際に工場で従業員が着用している調理着を展示・試着体験を行う予定。安心安全に気を付けてとうふ作りが行われることを参加者に見て学んでもらう。

地域のお菓子屋さんとお菓子づくり体験

◆事務局

ル・ブラン・ネージュご協力のもと、摘果ぶどうを使用したスイーツづくりを学ぶ。摘果ぶどうの説明を担当課で行い、実際の調理体験はパティシエと子供たちで行う。

ひがしうら食改による夏休み親子食育料理教室

◆事務局

ひがしうら食改と一緒に、おからを使ったパンを作り、サンドバーガーにして料理を楽しむ。今回は摘果ぶどうのアグリーダは使用しない。

◇委員長

夏休み親子料理教室の開催時間は。

◆事務局

午前 10 時から午後 1 時を予定している。

◇委員長

意見・質問を問う。

(意見なし)

(議題3) グルぐるキャンペーンについて

◆事務局

資料4に沿って説明を行う。

「ひがしうら Re-Bone グルメ グルぐるキャンペーン “夏トク” 2025」と題し、令和7年7月から9月の3か月間実施する。昨年同様、ひがしうら Re-Bone グルメをグルメ提供店で食べる、または、食育体験プログラムへの参加でスタンプを1つ獲得し、応募用紙を役場等に設置される応募ボックスへ投函することで、豪華景品が当たる抽選に参加できるという内容で実施する。

本キャンペーンにより多くの方に参加してもらうために、様々な媒体を活用し、周知を行っていく。

◇委員長

グルメ提供店として参加する立場であるが、本キャンペーンに参加することで、店舗情報がチラシに掲載されるため、無償でPRをすることができ、大変ありがたい。参加店舗が増えていくといい。参加店舗集めはどのように行っているのか。

◆事務局

参加店舗集めについて、毎年参加してくれている店舗へのお声がけに加え、毎年広報ひがしうらでひがしうら Re-Bone グルメを

開発し、キャンペーンに参加してくれる店舗の募集を行っている。摘果ぶどうについては商工農政課のホームページで摘果ぶどうの活用事業者を募集している。ホームページを見て、摘果ぶどうの活用について興味を持った事業者から問い合わせがあるので、事業者の動きも注視し、将来的にはグルメ提供店として参加してもらえるように働きかけていきたい。

◇委員長

引き続き提供店を増やす努力を行っていただき、参加店舗が増え、ひがしうら Re-Bone グルメののぼり旗が町中にあふれるような企画になっていくと良い。

◇委員

委員会としての目的を整理すべき。イベントに参加してくれた人に対してはイベントの目的を伝えることができる一方で、参加していない人に対してのアプローチが難しい。イベントに参加せずとも、チラシなどの広報媒体を見たことをきっかけに、行動を起こすなど動線作りが重要。ぐるぐるキャンペーンに参加することも動線の一つ。

グルメ提供店が増えることも委員会の成果の一つである。グルメ提供店を広く募集している姿勢が分かるような専用のホームページや広報ができると良い。東浦町の食に関する取組の成果を数値的に表し、広報することで、町内から近隣市町村へと広くPRできると思う。いい取組を行っているので、活動と活動をつなげていき、より東浦町の食の取組に関わる人を増やしていきたい。

◇委員

地域の縁側としてキャンペーンに参加している。キャンペーンを通して店舗のお客様を獲得することができる。

参加する他の店舗からは、キャンペーンに参加したお客様の感想が届いていないという声がある。

◆事務局

キャンペーンの応募用紙に感想を記入する欄があるので、お客様が記載した感想を集計し、キャンペーン終了後に各店舗に届けている。また、各店舗へもキャンペーンに参加した感想をアンケートで調査している。今回もキャンペーン参加者からいただいた声を確実に参加店舗へ届けられるように、方法を工夫していきたい。

◇委員

グルメ提供店として参加してくれる店舗が離れていってしまうともったいない。生の意見を拾えるように工夫すべき。

◇委員長

現在のグルメ提供店は個人経営の店舗が多い。チェーン店にも参加してもらえると、ひがしうら Re-Bone グルメの取組が広がっていくのでは。

（議題４）令和７年度食育スケジュールについて

◆事務局

資料５に沿って説明を行う。

委員の皆様から頂いた意見を反映し、年間を通して食育の取組を進めていきたい。

年間計画における昨年度からの変更点は主に以下のとおり。

食育体験プログラムについて

①食育体験プログラムの開催時期を変更し、年間を通して食の循環を学ぶことができる機会を設ける

②プログラム申込時の様式を変更し、イベント参加の動機を調査する

③プログラム実施後のアンケート内容を変更し、参加者の行動変容を図る

食に関するアンケートについて

緒川小学校での取組発信を強化するため、ぶどうに関する授業の取材及び広報を行う

学校給食について

①給食コラムにおいて、ひがしうら Re-Bone グルメ、骨折予防及び朝食の啓発を行う

②給食で東浦町産の食材を提供できるように調整を行う

朝食の啓発について

朝食メニューを各委員で考え、１～３月頃に町公式ＬＩＮＥなどで周知を図りたい。朝食を食べていない１０～３０代が取組しやすいような内容を検討する。

食育推進委員会は年３回を予定している。

◇委員

トーエイ株式会社の取組として、卯ノ里小学校で５年生を対象に米作り体験を行う。今年度はスーパーマーケットのマルスも授業に協力いただけるとのことで、米作り後の流通について７月に授業を行う予定。

	◇委員長 意見・質問を問う。 ◇委員 朝食の啓発を行う上で、まずは朝食の必要性を広く知らせることが重要。食を楽しめる要素を加えながら、水野先生の講話を聞くことができる場を設けると良いのでは。 グルメ提供店について、現在協力していただいている店舗については、どのような問題意識のもと参加しているのか調査するのはどうか。食に対する問題意識を洗い出すことで、新たな協力店舗の獲得にもつなげていくことができると感じた。 朝食の啓発について、企業・飲食店に朝食のメニューを考えてもらうのはどうか。委員が考えるよりも、よりノウハウ等がある企業・飲食店に検討してもらいたい。企業・飲食店のPRに繋げることができる。 ◇委員 ラソプラザでは複数種類のメニューから好きなメニューを組み合わせて朝食を食べる「選べるモーニング」を実施している。このメニューを子供たちと一緒に考えたり、町内企業にメニューづくりを協力してもらうなど、様々な人に関わってもらい、朝食について広く関心を持ってもらえるような企画としたい。 ◇委員 朝食欠食が多い世代が10～30代ということで、子供と子育て世帯が対象になるのでは。ターゲットが集まりやすい小・中学校で水野先生の講話を行うのはどうか。 ◇委員長 緒川小学校でのアンケート調査について、ぶどう栽培の授業は関係があるのか。 ◆事務局 アンケートでは、ぶどう栽培の授業を通し子どもたちに意識・行動変容があったかどうか調査するもの。緒川小学校では林ぶどう園によるぶどう栽培の授業を行っている。その取組について、町でも発信を強化していきたい。 ◇委員長 アンケート調査を行うのであれば、他の小中学校でも実施したらいいのでは。 ◇委員 元々緒川小学校でアンケート調査を実施することになった背
--	---

景として、林ぶどう園によるぶどう栽培の授業を行っているという背景から、授業の前後で子どもたちの行動変容が一番把握しやすいというものがある。同時期に栄養教諭による食のバランスの話を小学3年生に対して行っているというのもあり、モデルケースとして緒川小学校を選定している。

昨年の委員会において委員の皆様から他の小中学校でもアンケート調査を実施したらどうかとご意見をいただき、小学4年生から中学3年生に対し、アンケート調査を行った。回答率がかなり低く、今後はアンケート方法を工夫する必要があるという課題がある。

◇委員

どのようなアンケート内容であったのか。

◇委員

朝食や給食など全般的な食に関するアンケートに加え、「東浦町のぶどうを食べたことがあるか」という東浦町のぶどうに対する認知度の調査、今後食育体験プログラムでどのような体験をしたいかという質問を組み込んでいた。目的としては、子どもたちの現状把握及び行動変容を確認するために実施した。

◇委員長

事務局による報告型の会議ではなく、委員の意見を拾い、年間の内容を考えていけるように会議の開催頻度を見直すといいのでは。

◇委員

体験プログラムなども色々な人を巻き込んで組み立てていけるといいのでは。食は生涯にわたって重要。幼い頃から習慣として食についての意識や行動を身に着けていくことが重要。幅広いターゲットを巻き込んでいくためには、様々な立場の人からの意見・アイデアを取り込み、本委員会においても仲間意識をもって取り組んでいきたい。

学校の食育教育に興味を持った。卯ノ里小学校では米作りを、緒川小学校ではぶどう栽培を学んでいるが、他の保育園や小中学校ではどのような食育教育を行っているのか。各教育機関ですでに取り組んでいる内容に、食育をプラスアルファできるとより子どもたちへのアプローチができると思う。

◇委員

朝食を調理してくれる人を募集中。

ひがしうら Re-Bone グルメのネーミングがキャッチーでいいと

思うので、より浸透させていくために、食育の活動を「ひがしうら Re-Bone グルメ活動」などと名付け、広く周知させていくことはできないか。現在、食育の取組は健康課のホームページで、ひがしうら Re-Bone グルメキャンペーンについては商工農政課のホームページで掲載されており、観光協会のホームページでもひがしうら Re-Bone グルメについて紹介されている。繋がりを感ぜられず、どこを見ればいいのか分かりづらい状態になっている。

懸念点として「ひがしうら Re-Bone グルメ」にはハイフンが用いられているため、ハッシュタグにした際に途中で切れてしまい、PRが出来なくなってしまう。「リボーングルメ」など名称を変更する必要があるが、町の公式ハッシュタグを作成し、グルメ提供店や参加者が自発的に使用できるように統一して周知していけると良いのでは。

◇委員

学校給食はカタカナで「リボーングルメ」と表記している。

◆事務局

ハッシュタグの名称について、検討していきたい。

◇委員

「朝食×〇〇」のように、朝食啓発のテーマをより絞って打ち出していくといい。

ある食品メーカーの朝食についてのアンケートがWEBで公開されているが、朝食において重視されているのは美味しさよりもバランスや野菜接種、カロリーであった。単に「朝食を食べよう」と啓発するのではなく、朝食の中でも具体的なテーマを絞ってアプローチしていきたい。町が把握している情報も活用して、より興味を持ってもらえるような内容で啓発していきたい。

◆事務局

今までひがしうら Re-Bone グルメをPRしていく中で、食材である「おから」と「摘果ぶどう」に焦点を当てていた。これから朝食の啓発を進めていくにあたり、ひがしうら Re-Bone グルメにからめていくべきか、広く啓発してくために切り離して考えてもいいのか、ご意見を問う。

◇委員

年間スケジュールに縛られて考えると、限られた会議回数の中でアイデアを出すことが難しい。アイデア出しには色々な立場の人から意見を聞くことが重要。会議の回数を増やし、アイデア募集の場を設け、計画を立てていくのはどうか。

◇委員

おからと摘果ぶどうを朝食に取り入れることはハードルが高いのでは。朝食はあらゆる食材を使用してもいいと思うので、幅広く考えていくといいのでは。

◆事務局

朝食啓発については、おからと摘果ぶどうに制限せず、幅広く考えていく方向で進めていく。

◇委員

ひがしうら Re-Bone グルメのコンセプトをもう少しゆるめてもいいのでは。コンセプトがしっかりしている反面、広がりづらい。元々骨折予防から始まったひがしうら Re-Bone グルメではあるが、朝食を食べること自体もゆくゆくは骨折予防に繋がっていく。コンセプトを東浦町の食材を使用していたらOKなど、取り入れやすい形に変更していくことも検討すると良いのでは。

◆事務局

食育に関して、商工農政課農政係、商工労政係及び健康課という3部署で進めている。各部署での目的が異なる中で、今回は委員の皆様から様々なご意見いただいた。皆様の意見を事業に反映していけるように、推進委員会の考え方や進め方について事務局で共有をはかり、会議の開催時期についても改めて検討していきたい。

閉会を宣言。